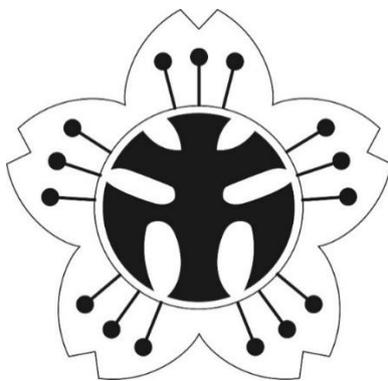


令和7年度

運営に関する計画 (最終評価)



大阪市立市岡小学校

大阪市立市岡小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

中期目標【安全・安心な教育の推進】

- 大阪市小学校学力経年調査や校内児童アンケートにおける、「学校に行くのは楽しいですか」という質問に対し、肯定的な回答(「そう思う」「どちらかといえばそう思う」)をする児童の割合を毎年向上させ、令和7年度には85%以上にします。

◆R07 大阪市小学校学力経年調査 ※本年度/昨年度(本年度の大阪市平均)

3年生: 75.5/67.7 (85.9) 4年生: 61.5/63.9 (83.1)

5年生: 82.9/77.2 (82.0) 6年生: 79.3/74.5 (83.3)

◆R07 校内児童アンケート ※本年度/昨年度

1年生: 92.8/— 2年生: 90.9/100 3年生: 90.2/84.3

4年生: 73.1/78.1 5年生: 87.8/77.4 6年生: 91.8/90.6

- 大阪市小学校学力経年調査や校内児童アンケートにおける、「学校のきまりを守っていますか」という質問に対し、最も肯定的な回答(「そう思う」)をする児童の割合を毎年向上させ、令和7年度には60%以上にします。

◆R07 大阪市小学校学力経年調査 ※ () は大阪市平均

3年生: 51.1/— (52.4) 4年生: 23.1/16.7 (48.5)

5年生: 40.0/33.3 (44.0) 6年生: 39.7/32.7 (44.1)

- 校内児童アンケートの「じぶんにはよいところがあるとおもいますか」という質問に対し、肯定的な回答(「そう思う」「どちらかといえばそう思う」)をする児童の割合を毎年向上させ、令和7年度には85%以上にします。

◆R07 校内児童アンケート ※本年度/昨年度

1年生: 89.6/— 2年生: 79.6/94.9 3年生: 90.0/69.8

4年生: 85.5/68.8 5年生: 84.4/66.0 6年生: 59.4/65.7

中期目標【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 校内児童アンケートの「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意です」という質問に対して、肯定的な回答(「そう思う」「どちらかといえばそう思う」)をする児童の割合を毎年向上させ、令和7年度には80%以上にします。

1年生: 86.2 2年生: 70.5 3年生: 85.0

4年生: 62.5 5年生: 71.9 6年生: 45.9

中期目標【学びを支える教育環境の充実】

- 校内児童アンケートの「パソコンやタブレットを使って、知りたいことをインターネットで調べたり、文字を入力したり、写真や図を使って表したりすることができます」という質問に対して、肯定的な回答(「そう思う」「どちらかといえばそう思う」)をする児童の割合を毎年向上させ、令和7年度には70%以上にします。

1年生: 100 2年生: 81.8 3年生: 80.0

4年生: 97.5 5年生: 86.7 6年生: 73.0

大阪市立市岡小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況																														
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校学力経年調査における「いじめは、どんなことがあってもいけないことだと思いますか」に対して最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を90%以上にします。 <table border="1"> <tr> <td></td> <td>3年</td> <td>4年</td> <td>5年</td> <td>6年</td> </tr> <tr> <td>最も肯定的回答（%）</td> <td>91.3</td> <td>55.6</td> <td>84.2</td> <td>74.5</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にします。 <table border="1"> <tr> <td></td> <td>3年</td> <td>4年</td> <td>5年</td> <td>6年</td> </tr> <tr> <td>肯定的回答（%）</td> <td>75.5</td> <td>61.5</td> <td>82.9</td> <td>79.3</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> 小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を92%以上にします。 <table border="1"> <tr> <td></td> <td>3年</td> <td>4年</td> <td>5年</td> <td>6年</td> </tr> <tr> <td>肯定的回答（%）</td> <td>97.8</td> <td>69.5</td> <td>91.2</td> <td>89.1</td> </tr> </table> <p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内児童アンケートの「じぶんにはよいところがあるとおもいますか」という質問に対し、肯定的な回答（「そう思う」「どちらかといえばそう思う」）をする児童の割合を77%以上にします。 校内アンケート結果：80.0% 校内児童アンケートの「スマホの危険性や適切な使い方について理解していますか」という質問に対し、肯定的な回答（「そう思う」「どちらかといえばそう思う」）をする児童の割合を80%以上にします。 校内アンケート結果：95.5% 		3年	4年	5年	6年	最も肯定的回答（%）	91.3	55.6	84.2	74.5		3年	4年	5年	6年	肯定的回答（%）	75.5	61.5	82.9	79.3		3年	4年	5年	6年	肯定的回答（%）	97.8	69.5	91.2	89.1	B
	3年	4年	5年	6年																											
最も肯定的回答（%）	91.3	55.6	84.2	74.5																											
	3年	4年	5年	6年																											
肯定的回答（%）	75.5	61.5	82.9	79.3																											
	3年	4年	5年	6年																											
肯定的回答（%）	97.8	69.5	91.2	89.1																											

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容①【安全・安心な環境教育の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校のきまりに関する指導を毎月行う。 (生活指導) <p>指標</p>	A

<ul style="list-style-type: none"> ・月間のめあてを毎月設定し、毎週の朝会で指導を行う。 ・安心・安全ルール及び学校のきまりを用いた指導を、学期に2回行う。 	
<p>取組内容②【豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめの日に、いじめに関する指導を全校で行う。 <p style="text-align: right;">(道徳教育)</p>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳の授業や所見づくりに関する研修を年一回以上行い、指導法の共通理解を深める。 	
<p>取組内容③【豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年一回校内研修を行い、取り組みを深める。 <p style="text-align: right;">(人権教育)</p>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年でテーマを選定し、人権実践報告会を年一回行う。 	
<p>取組内容④【安全・安心な環境教育の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異学年交流を行う。 <p style="text-align: right;">(児童活動)</p>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全校遠足を年一回行う。 ・全校遠足のアンケートで、肯定的に答える児童の割合を82%以上にする。 ・各学年で全校集会とは別に、年一回以上異学年交流を行う。 	
<p>取組内容⑤【安全・安心な環境教育の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学期に一回集団登校と地区別児童会を行い、安全な登下校について、児童に考えさせる。 ・安全に関する教員研修を年一回行う。 <p style="text-align: right;">(安全教育)</p>	A
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学期に一回地区別児童会を行い、安全な登下校について児童に指導を行う。 ・年一回不審者研修を行う。 ・高学年はスマホ教室を年一回行う。 	
年度目標の達成状況や取組の達成状況の結果と分析	
<p>【取組内容①について】(達成状況 A)</p> <p>○ 月間目標を毎週の児童朝会で指導することで、児童は振り返ったり、確認したりできた。また、新しい学校のきまり(鉄棒など)も全体指導をすることで指導の統一が図られ、児童が守ろうという姿勢になっていた。学校のルールについても、朝会や学級で指導したり、ポスターで周知したりすることで児童に意識付けられていた。</p> <p>【取組内容②について】(達成状況 B)</p> <p>○ いじめ傾向にある事案は関係教諭と話し合い連携を図ってきた。児童の思いを丁寧に聞き取ることで解決方法に導くことができた。また、いじめの日に、全校でいじめについて考えることができた。学級で道徳の授業でもいじめについて考えさせ、いじめは決して許されることではないということを意識できるように指導した。</p> <p>【取組内容③について】(達成状況 B)</p> <p>○ 校内人権実践報告会を設け学年に応じた課題に沿って取り組みを行った。また人権の研</p>	

修に参加することで、視野や知識を広げたり深めたりすることができ、人権教育研修や実践報告会に向けての取り組みを進めることができた。

【取組内容④について】（達成状況 B）

- 全校遠足の計画・実施日程が合わなかったため、実施できていない。ふれあい遊びの時間も少し短くなった。年度はじめに異学年交流の年間計画と日程の調整が必要である。児童集会を通してたてわりの異学年交流ができていた。全校遠足のかわりに行ったふれあい遊びでのアンケートは「楽しかった」が66%であった。

【取組内容⑤について】（達成状況 A）

- 安全な登下校ができるよう、学期に1回、地区別児童会を行った。登下校中の安全や集団登校の意義について話し合い、1年間安全に登下校ができた。また、不審者研修を行い、不審者が侵入した際に想定される対応について実施した。

次年度への改善点

- 学校のきまりや月間目標は、今後も指導や振り返り等を継続していく。
- 道徳教育と人権教育を絡めて研修会や児童理解、他者理解の場を設けていきたい。いじめや人権に関することは常に意識して行動できるように継続して指導する必要がある。実践報告会に向けてだけの取り組みで終わるのではなく、一年を通して根付くように取り組みを続けていく。また、年度はじめにきちんと計画を立てておく必要もある。実践報告を受けて、次年度の学年の課題や取り組みを明確にするとともに、年間計画を作成していく。
- わいわいフェスティバル以外でも集会やさわやか班を活用して異学年交流の機会を学校行事とのバランスをみて年間計画を立て増やしていく必要がある。学年交流の場をもう少し増やし、たてわり班での活動の仕方を検討していく必要がある。また、たてわりだけでなく、ペアでの学年交流も増やしていくとより活発になると考える。
- 集団登校では、班長会議を通して、どの班もルールを守って登下校できるように指導を継続する。地区別児童会では、班長のマニュアルを用意し、児童主体で話し合いができるようにする。また、遅れて班で登校できていない児童にも声をかけていく。不審者対応は今後も実施しながら、児童が校内にいる場合の対策ができるよう取り組んでいく。

大阪市立市岡小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標					達成 状況
【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】					B
全市共通目標（小・中学校）					
<ul style="list-style-type: none"> 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を35%以上にします。 					
	3年	4年	5年	6年	
最も肯定的回答（%）	42.2	32.7	31.4	29.3	
<ul style="list-style-type: none"> 小学校学力経年調査における算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.02ポイント向上します。 					
	3年	4年	5年	6年	
R6		1.022	0.927	1.031	
R7	1.015	0.959	1.008	0.967	
前年度比		-0.063	+0.081	-0.064	
<ul style="list-style-type: none"> 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を73%以上にします。 					
	3年	4年	5年	6年	
肯定的回答（%）	93.4	88.5	71.5	43.1	
<ul style="list-style-type: none"> 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にします。 					
	3年	4年	5年	6年	
肯定的回答（%）	88.9	78.9	74.3	48.3	
<ul style="list-style-type: none"> 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を70%以上にします。 					
	3年	4年	5年	6年	
最も肯定的回答（%）	82.2	61.5	71.4	55.2	
学校の年度目標					
<ul style="list-style-type: none"> 小学校学力経年調査における「社会の授業内容はよく分かりますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にします。 					
	3年	4年	5年	6年	
肯定的回答（%）	75.6	73.3	74.3	79.3	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>(1) 話し合いの深まりを確認するために、授業の終わりにふりかえりの時間を設けるとともに、話し合いの過程や結果、ふりかえりの内容を教員が児童にフィードバックすることを通して、話しやすい集団づくりを行う。 (学力向上)</p> <p>指標 (1) 小学校学力経年調査(3~6年)、校内調査(1・2年)における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的に回答する児童の割合を35%以上にする。</p>	C
<p>取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>(1) 児童に学力をつけるために必要となる、教員の授業力を向上させるため、基本的な社会科の授業の進め方について研修する。 (社会科)</p> <p>指標 年間4回以上、研修会を行う。</p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>(1) 児童に学力をつけるために必要となる、教員の授業力を向上させるため、基本的な算数科の授業の進め方について研修する。 (算数科)</p> <p>指標 (1) 年間1回以上、研修会を行う。</p>	B
<p>取組内容④【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>(1) 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を73%以上にする。 (理科)</p> <p>指標 1 単元につき1回以上児童が主体的に取り組む実験・観察を行う。</p>	B
<p>取組内容⑤【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>(1) 小学校学力経年調査(3~6年)、校内調査(1・2年)における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。 (外国語)</p> <p>指標 (1) 年間1回以上、研修会を行う。</p>	B
<p>取組内容⑥【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>(1) 教員がシナプソロジーの考え方に基づいた、運動の仕方や遊び方を学び、体育授業で行う。 (体力づくり)</p> <p>指標 (1) 年1回以上の研修会を行う。</p>	B

<p>取組内容⑦【基本的な方向 5 健やかな体の育成】 (1) 児童の体力向上を目指し、なわとびにふれる機会を増やす。 (体力づくり)</p>	B
<p>指標 (1) 年間1回以上「なわとび週間」を実施する。</p>	
<p>取組内容⑧【基本的な方向 5 健やかな体の育成】 (1) 手洗い活動を徹底する。 (健康教育)</p>	B
<p>指標 (1) 11月に実施する手洗い週間で、給食前の手洗いが行えている児童の割合を85%以上にする。(カードから)</p>	
<p>取組内容⑨【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】 (1) (1) 指導力向上のため、全員授業を行う。 ・社会科授業研究意見交流による課題解決 (全体研究授業…4回) ・初任者研修〈木本〉(年間1回以上) ・OJT〈濱口・小林・三好〉(年間1回以上) ・学力向上のための効果検証〈永井〉(各学期1回、社会科研究授業と兼ねてもよい) ・その他の研究授業(教科は問わない) (2) 困っていることを出し合い、意見を交換するような若手研修を行う。</p>	B
<p>指標 (1) 全員が一年に一回以上、授業を公開し、指導力の向上を目指す。 (2) 年間4回以上の研修を行う。 (研修)</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の達成状況の結果と分析</p>	
<p>【取組内容①について】(達成状況 C) ○ 話し合い活動を通じて考えを深めることができたと答えた児童は33.9%であった。 【取組内容②③⑥について】(達成状況 B) ○ 計画通り研修を進めることができた。 【取組内容④について】(達成状況 B) ○ 目標通り児童が主体的に取り組む実験・観察を行った。班で協力して実験に積極的に取り組むことによって、活発に理科の授業に参加する姿が見受けられた。実験観察で終わりではなく、それ以降にもつなげるようにしっかりと考察をし、更に全員で小单元ごとに復習をすることができた。 【取組内容⑤について】(達成状況 B) ○ 今年度も昨年度に引き続き、モジュール学習を通して外国語に触れる機会を全学年で設けるようにした。これにより単語量を増やしたり、よく知られている絵本を英語絵本の読み聞かせ活動</p>	

から反復表現をまねしたりして英語に触れることができていた。絵本活動に関しては、よく知られている絵本を活用し内容がわかることから不安がることなく、英語の表現を知ること集中することができていた。また、1・2年生の校内アンケートの結果としては、「外国語（英語）の勉強は好きですか？」に対し、91.7%の児童が肯定的な回答だった。

【取組内容⑦について】（達成状況 B）

- 1月に「なわとび週間」を実施した。

【取組内容⑧について】（達成状況 B）

- 月に手洗い習慣を実施した結果、給食前の手洗いを行えた児童の割合は99.3%であった。

【取組内容⑨について】（達成状況 B）

- 全員が一年に一回以上の公開授業を行い、授業力の向上を目指した。若手研修は年間4回行われた。一人一授業を実施し、普段はすることができない先輩方の授業見学をする機会を設け、授業力向上につなげた。

次年度への改善点

- 考えが深まるような話し合い活動は一朝一夕に身につくものではなく、学年に応じて系統立てた指導を継続していく必要がある。
- 3年間研究教科を社会科として取り組んできた結果、基本的な社会科の授業の進め方については十分研修することができた。来年度の研究教科については今後検討していくが、社会科の授業に関してはこの3年間で学んだ授業の形を続けていきたい。
- 今年度は朝学習の時間に、タイピング活動や読書週間、1時間目に体育科の授業など多くの活動とかぶり、学年やクラスで取り組みに差があった。他の学校では、お昼休みの10分に行ったり、掃除の時間と5時間目の間に「イングリッシュタイム」を設け取り組んだりしていたので、次年度は活動時間を見直すかどうか部会等で話し合い検討していく必要があると考える。
- 縄跳びを実施することで、児童たちの体力向上を目標にした。ただ、体力向上を目指すならば、中・長期の期間で実施するのが効果的であることも考えると期間を延ばして実施する必要がある。また縄跳びだけでなく、持久走などの取り組みも検討したい。
- 給食前の手洗いは全体的によくできていたが、掃除の後の手洗いはあまりできていないクラスもあった。またハンカチを持ってきていない児童が多くいたので、手洗いやハンカチの携行の徹底をする必要がある。

大阪市立市岡小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標											達成 状況	
【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】 全市共通目標（小・中学校）												B
<ul style="list-style-type: none"> 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の57%以上にします。 												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月		
達成状況 (%)		90.0	52.4	46.2	75.0	75.0	72.7	76.5	52.9	78.6		
<ul style="list-style-type: none"> 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を92%以上にします。 												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月		
達成状況 (%)	92.8	89.2	89.2	85.7	100	86.7	86.7	86.7	86.7	86.7		
学校の年度目標												
<ul style="list-style-type: none"> 校内児童アンケートの「読書は好きですか」という質問に対し、肯定的な回答（「そう思う」「どちらかといえばそう思う」）をする児童の割合を70%以上にします。 												
校内アンケート65.0%												

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標											達成 状況	
取組内容①【基本的な方向6 教育DXの推進】												A
<ul style="list-style-type: none"> 校内ICT実践報告会を2回以上実施することで、教職員のICTに関する技術と意識を高め、ICTを活用した授業をさらに増やせるようにします。 （ ICT ）												
指標												
<ul style="list-style-type: none"> 校内児童アンケートの「日々の授業の中で学習者用端末を活用して学習している」という質問に対して、「ほぼ毎日」と回答する児童の割合を80%にします。 												
取組内容②【基本的な方向5 健やかな体の育成】												B
<ul style="list-style-type: none"> 栄養指導を各学級年間2回実施し、食育に対する意識を高めます。 児童集会で給食委員から給食目標を毎月初めに発表し、ごはんを残さず食べるという意識付けができるようにします。 （ 学校給食 ）												
指標												
<ul style="list-style-type: none"> 給食週間にアンケートで、「ごはんを残さず食べる」という質問に対し、好意的に回答す 												

<p>る児童の割合を85%以上にします。</p>	
<p>取組内容③【基本的な方向8 生涯学習の支援】 次の取り組みを行い、子どもが本に触れる機会を増やしたり、本のおもしろさを感じたりできるようにします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読書タイムを週に1回実施します。 ・図書館司書の読み聞かせを学期に1回以上実施します。 <p style="text-align: right;">(学校図書館)</p>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内児童アンケートの「読書は好きですか」という質問に対し、肯定的な回答をする児童の割合を70%以上にします。 	
<p>取組内容④【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SSSや生活指導支援員、学校司書や学校サポーター、スクールカウンセラーなど学校運営に関わる関係者との連携を図り、教員の負担を軽減します。 ・ 教職員がスムーズに校務運営が行えるよう、サポートします。 <p>(教務)</p>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校関係者の来校日を月行事予定表や職朝連絡、また職員室前のホワイトボードに明記することで、教職員と学校運営に関わる関係者が円滑に連携できるようにします。また、学期ごとにアンケートを行い連携ができていないか検討します。 ・月に一度校務運営に関するアンケートをとり、教職員の困りごとがないか定期的に確認し、修正や改善を行います。 	B
<p>取組内容⑤【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月行事予定表に「ゆとりの日」を明記するとともに、教職員連絡文書（職朝連絡）に当該週の「ゆとりの日」を再度周知することで、業務の計画的な遂行を支援する。 <p>(教頭)</p>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月ごとの「教員の時間外勤務時間の状況について」における、「45時間以上60時間以下」及び「60時間以上80時間以下」の割合を前年度以下にする。 	
<p>年度目標の達成状況や取組の達成状況の結果と分析</p>	
<p>【取組内容①について】(達成状況 A)</p> <p>○ 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が68.8%となり、目標の55%を上回ることができた。また、校内児童アンケートの「日々の授業の中で学習者用端末を活用して学習している」に対する肯定的な回答の割合が95.8%で、目標の80%を大きく上回った。月に2回ICT交流会を行い、各学年のICT機器を活用した実践を交流したり、キャンパの研修を2回行ったことにより、教員のICT活用技術が上がり、児童の1人1台端末の活用率が上がったといえる。</p> <p>【取組内容②について】(達成状況 B)</p> <p>○ 他校からの栄養教諭による栄養指導によって、色々な食材を食べる大切さを考え、苦手なものも食べようとしている姿が見られた。また、給食委員会が毎月児童朝会で給食目標を伝えたり、</p>	

『給食協調週間』に米やパンの残食率を掲示したりしたこと、食べ残しを減らすことができている。校内アンケート「ごはんを残さず食べる」という質問に対し、肯定的に回答する児童の割合は90%であり、目標より5%上回っている。

【取組内容③について】（達成状況 B）

- 毎週火曜日の朝に読書タイムを実施した。2学期・3学期には『読書週間』も実施し、児童らが本に触れる機会を増やすことができた。2学期は港図書館のおはなしボランティアによる『おはなし会』、3学期は図書委員会の児童による『おはなし会』を実施した。校内児童アンケートの「読書は好きですか。」という質問に対し、肯定的な回答をする児童の割合は65%であり、目標を若干下回った。

【取組内容④について】（達成状況 B）

- 職朝連絡を毎日発行し、校務の共通理解を一定行うことができたが、周知できていないこともあった。教職員の業務削減として、会議は時刻通りに始めることと内容を精選することにより、会議時間を減らしたこと、SSSの活用や学級担任の業務を一部教務が行う等を行った。また、校務運営に関するアンケートについては計画的に実施していないが、業務軽減や校務の共通理解の回り方等について、会議中の発言や普段の会話など、現場の声から業務を見直し改善を行った。

【取組内容⑤について】（達成状況 B）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
R06 45 時間 以上 (%)	0	8	8	0	0	3.85	11.54	7.69	0	0
R06 60 時間 以上 (%)	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R07 45 時間 以上 (%)	3.57	3.57	3.57	0	0	3.33	3.33	0	0	3.33
R07 60 時間 以上 (%)	7.14	3.57	7.14	0	0	0	3.33	0	0	0

- 昨年度と比較した表が上記の通りである。年度当初は時間外勤務の割合が高い傾向にあったが、その後減少傾向にある。教職員の勤務に対する普段の心がけや意識をもってもらうことにより達成できたと考える。一方で、一部教職員の勤務については改善されていないことも伺える。

次年度への改善点

- 来年度は、教材の本質を考え、より効果的な ICT 活用法やその教材を学ぶのにデジタルとアナログのどちらが適しているのかを考えて活用していく。また、情報モラルとしてのルールの大切さや ICT 機器の身体への影響などについて学ぶ機会を、道徳や保健等の教科と関連させ、計画的に行っていく。
- 来年度も年 2 回の栄養指導と給食委員会が児童朝会で給食目標を伝える活動を継続する。また『給食協調週間』で、給食委員会による食べ残しを減らす取り組みも引き

続き行う。『給食協調週間』以外の日に食べ残しがまだまだあるので、日ごろから食べ残さないよう心掛ける声掛けを行ったり、食器等の返却時に、パン箱や米の箱を空にして返却しているかを確認したりするなど、毎日継続した指導を行う。また、給食調理員さんや作っていただいている人々に対する感謝をことあるごとにしっかりと指導し、各担任が共通理解のもと、同じように指導していくことが必要である。

- 毎週火曜日の朝の『読書タイム』を今後も続けていく。『読書週間』についても各学期に1回ずつ実施し、児童が本に触れる機会を増やしたい。また、調べ学習や読書週間などで、図書とICTを活用した取り組みを行ったり、国語の教科書に載っている図書や、調べ学習で活用できる図書を増やしたりするなど、授業でも本を活用できるように取り組みを進めていく。さらに図書館司書についても、学校図書館の運営や管理だけではなく、学習の場面でもさらに活用していけるようにしていく。
- 職朝連絡や職員連絡会を活用し、学校行事や来校者の予定等を職員に周知できるようにしていく。校務運営に関するアンケートを学期ごとに行い、職員の業務改善を図っていく。また、スクールカウンセラーと学級担任が連携し、よりよい教育活動が行えるよう、情報共有の場を設定したり、スクールカウンセラーに子どもの見取りを書いてもらったりしていく。
- 校務分掌の役割分担について、一部の教職員の負担がかからないよう再考する必要がある。また、ゆとりの日や学年打ち合わせ、研修や会議等についても年度初めに明確になるように周知していく。